

# 小説における女性描写表現の日米語対照研究

異文化コミュニケーションゼミナール 1313077 小室 宏功

## 1. 研究動機・研究目的

「あなたはどんな人を美人だと思いますか」。この問題を100人に聞いたら、おそらく100通りの答えが返ってくるかもしれない。確かに、個人レベルではこれは主観的な感覚、個々人の趣味やセンスが問われる問題である。しかし、文化圏を単位にすると、美人の概念は社会や文化関わる興味深い問題になる。つまり、個人を社会の一員として考えて、ある特定の文化圏の中の特定の一人はどんな美意識をもつのか、そのような美意識はどこからきたのか。これらの問題に答えるために、個人を社会から取り出して考えるよりは、社会の中に入れて構造主義の考え方を使得って分析するほうが効果的である。

ボーヴォワール(1949)は、『第二の性』において、性別には先天的・身体的・生物学的に個体が具有する性別(セックス)と社会的・文化的に形成された性別(ジェンダー)の2つがあることを示した。そして後者は、社会的・文化的影響を受けながら徐々に獲得していくアイデンティティの一面だということを示唆している。つまり、女性観とは社会的・文化的影響を受けながら形付けられた概念なのである。「人は女に生まれず、女になるのだ」という彼女の言葉は、上記の概念を端的に表現したものである。

以上の説明から、各国の文化における美的価値観や女性観は、社会や文化と深く関わる概念であるということがわかる。そこで、日米語の小説における女性描写表現を比較・分析することで、各国の「美的価値観」「女性観」を明らかにすることができると考え、本研究に着手することにした。

本研究の目的は、日米における美的価値観および女性観を類似点と相違点をもとに比較・分析することで、その背景にある社会的・文化的性格を明らかにすることである。そして、自国の文化を再認識するとともに、異国の文化の理解を深め、異文化コミュニケーション力を円滑にすることに役立てたい。

## 2. 研究方法

現代の各言語における表現を比較するため、2000年以降に出版された小説を対象とする。また、ジャンルは女性描写表現が豊富であると考えられる恋愛小説に限定し、文学性に大きな偏りが出ないようにするため、文学賞受賞作家作品を中心に扱う。具体的な研究方法としては、顔や身体描写対象部位とその割合を検討する。また比喩表現に関しては、具体的に何に例えられるかを分析し、各言語の類似点や相違点をもとに分析する。

## 3. 主な結果と考察

- ①全身においては、各言語とも「顔」に関する描写の割合が半数を超えて最も高く、次に「上半身」、そして「下半身」の順であった。
- ②顔においては、日本語では、「目・瞳」(37%)の割合が最も高く、次に「口・歯・唇」

(27%)、「髪」(25%)であった。米語では、「髪」(35%)の割合が最も高く、次いで「口・歯・唇」(27%)、「目・瞳」(22%)であった。両言語とも、上位3部位でおよそ9割を占めた。

③上半身においては、日本語では、「手指」(34%)の割合が最も高く、次に「腕」「肩」(20%)であった。米語では、「胸」(29%)の割合が最も高く、次いで「手指」(25%)、「肩」(17%)であった。

④下半身においては、日本語においては、「脚・足」(38%)の割合が最も高く、次に「腰」(31%)、「尻」(15%)であった。米語では、「腰」(28%)の割合が最も高く、次いで「脚・足」(20%)と「恥毛」(20%)であった。

⑤比喩表現に関しては、各言語とも動物や植物、身の回りの物体にたとえており、「水晶」が両言語ともに観察された。

#### 4. 結論

両国とも女性を観察する際には、顔に目が向けられやすい。人間の容姿の特性は、顔がもっとも顕著に表れて、個人を認識したり判断したりする際のもっとも重要な要素になっているからである。部位別では、日本語は「目や瞳の形状」、米語は「髪色」が女性描写において最も着目された。日本人が肌、瞳、髪の色が基本的にほぼ同色の人種であるが、米国人はそうではない。さまざまな人種からなる多国籍国家である米国は、形状よりも色に美しさの重きを置いていることが分かる。

上半身および下半身描写の比較から、各国における美しいとされる体型に相違があることが分かった。各国のメディアやモデル、また様々なエンターテインメント要素をみれば一目瞭然だが、日本では「細い」ことが重要であると考えられていて、太ももやお尻を強調したくびれのあるセクシーな服装はなかなかみられない。プリクラが分かりやすい例で、最近では足長効果や足を棒のように細くすることが流行っている。日本では胸やお尻を強調するよりかは、手足の細さや長さが重要であると考えられている。対して米国では、お尻や胸が大きくて、ウエスト周りがすっきりしているのが理想の体型である。著名なモデルやアーティストがドレスなどの衣装を身に着けているのもそのためである。

比喩表現に関しては、間接的な表現を好むとされる日本語の方が、比喩表現は多く観察されると予想していたが、本研究では日米同数となった。水晶が両言語とも観察されたことから、世界的に美の象徴となっている普遍的な存在であると考えられる。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

“Play hard, study hard”をモットーに、まさに時にふざけあいながら時に真剣に、ともにゼミ活動を行ってきた仲間感謝している。特に常に筆者に刺激を与えてくれる良き友、良きライバルであった同期のAkiとYuiには重ねて御礼を申し上げる。そして何より、常に大きな愛を持って熱心にご指導いただいた須藤先生には心より感謝申し上げたい。須藤教授に出会えたことで私の人生は大きく好転しました。本当にありがとうございます。